

# 茨木市障害者地域自立支援協議会定例会（第 136 回）議事録

令和7年8月 28 日（木）10:00～

場所：ハートフル3階交流室

司会：ぽぽんがぽん

## 1 7月事務局会議の報告について

【資料①】7月事務局会議議事録

・質問なし

## 2 定例会メンバーからの報告・意見交換

【資料②】定例会シート

・茨木支援学校

内容は定例会シートの通り。実習が夏休みにあります。

・茨木・摂津障害者就業生活支援センター

9/2におにクルで茨木・摂津障害者就業生活支援センターの運営会議を実施。

・相談支援部会

7/31 に3回目の部会を開催。内容は定例会シートの通り。

・就労支援部会

内容は定例会シートの通り。

9/6 にセミナーを開催。案内等に就労支援部会の共催記載あり。

・地域移行・地域定着部会

本日開催の「にも会議」は、各機関の方にご協力いただき周知いただけたことで、幅広い職種の方に参加いただく予定。

・地域生活支援拠点等 PT

第1回目の会議を8/22（金）に開催

昨年度・今年度の取組について共有

5 月に登録説明会を開催したが、登録事業所は0

→問い合わせはあったが、現在はない

各事業所が所属している、相談支援部会・ソーシャルワーカー部会・事業所連絡会等にご意見いただきたい。

9/20 までにアンケートを作成し、各事業所から意見をもらう予定

11/14 に開催の第2回の会議にて、なぜ登録につながらないのか検討予定。

・障害当事者部会

8/26 に開催。新しい委員の自己紹介や茨木市障害者差別解消支援協議会等の報告、他団体交流について話し合った。

### 3 令和7年度第1回全体会（令和7年7月24 日）についての振り返り

議題2 令和6年度協議会取組報告と令和7年度計画について

「自立支援協議会の中で意見や助言を聞きたいこと」についてのご意見等

○相談支援部会

「地域課題として考えられるものがあればお聞かせいただきたい。」

〈委員からのご意見〉

・引きこもりについての問題

・ヘルパー制度である行動援護、重度訪問介護が広がっていない問題

○当事者部会

「茨木市では、対話を重視したまちづくりを進めるため、平成 29 年度から定期的に茨木市長とのタウンミーティングを実施している。茨木市長と障害当事者部会との交流についてどのような道筋があれば実現できるのか伺いたい。」

〈市からの回答〉

・タウンミーティングについてはテーマを設定して実習を行っているため、今後、テーマとして挙げるかどうかについては検討していきたい。

○地域移行・地域定着部会

「社会資源ツールについて、今後地域移行についての説明、取組を進める中で活用していくが、精神科病院や入所施設、地域のネットワーク以外でも活用のアイディア等あればお聞かせいただきたい。」

〈委員からのご意見〉

・シニアネットワーク、老人クラブ、シニアカレッジ、商工会議所、青少年健全育成運動協議会、生活支援体制整備推進協議会等にアプローチしてみるのはいかがでしょうか

・市の関係課の中で聞いてみたらよいのではないか 等

○こども支援部会

「いばらきっ子ファイルの周知状況、活用を進めるための方法について」

「医療的ケア児支援に関するニーズの把握と効果的な啓発の方法」

〈委員からのご意見〉

・「いばらきっ子ファイル」は現在紙の媒体であるが、アプリができると活用できる人が増えるのではないかと

〈オブザーバーからのご意見〉

- ・「いばらきっ子ファイル」の周知については、茨木市の小中全校が集まる連絡会にて発達支援課からの紹介あり
- ・「いばらきっ子ファイル」の活用機会としては、個別の教育支援計画の作成時になるが、保護者の持参がなければ活用に至らないといった現状にある
- ・保育所では、「いばらきっ子ファイル」を持参されて入園する方は非常に少ないのが現状

○地域生活支援拠点等 PT

「現在の対象者および将来対象者になる可能性のある利用者とその家族に対する、地域生活支援拠点等事業の周知方法について」

※意見を求めたが時間の関係もあり、全体会ではご意見いただけなかった。

詳細は後日 HP に掲載される全体会議事録で確認願いたい。

(意見)

- ・全体会のオンライン傍聴(音声のみ)について  
発言の時に名乗ってくれてはいたが誰か分からない時があった、資料のどこを読んでいるか分からない時があった。

## 4 その他

○茨木障害フォーラム 設立10周年記念講演

【資料】

○定例会の活性化について

(1) 定例会での報告が少なかった時にどのような話をしたいか

- ・防災について

(2) 定例会シートの記入内容について

- ・各団体にて、地域課題と感じている内容
- ・個別支援会議で現状解決が難しいこと等

○計画相談の利用率が40%に乗ったが、各機関で変わったと思うことはあるか？

- ・事業者が増えたのは確か。計画相談も増えていると感じる。
- ・障害福祉課が計画相談の利用へとつないでくれていると感じる一方、あっせんの数が増えると、対象者の特性と事業者の特徴にミスマッチを感じることもある。

- ・事業所が知らないうちに計画相談がついていることもある。
- ・利用者から「支援員と合わないから」との理由で繋いでも切れてしまうことがある。

○障害児について計画相談の利用状況はどうか

- ・障害児の相談支援の利用割合については増えていない。  
障害児相談支援の利用者数も増加しているが、障害児通所支援サービスの利用者の増加が上回っている。
- ・相談支援専門員の人数に限りがある中で、サービス調整の必要性が高い方から繋ぐようにしている。
- ・保護者自身が事業所とうまく連携をとり、児童に合ったサービスを選択できているケースもある。
- ・情報を集められる保護者が増え、事業所側も発信が上手くなっているのも要因と考えられる。

○放課後等デイサービス利用の実情について

- ・障害の特性により、よりきめ細やかな支援が必要な児童は事業所に受け入れてもらいにくい印象がある。
  - ・療育ではなく学童保育でもよいのではないかと思う児童が、放課後等デイサービスを利用している場合もある。
- ⇒ 発達支援が行われる環境は放課後等デイサービスに限らず、学校や学童保育などでも可能。発達の状況や障害の程度に応じて療育との併用も提案している。

以上

○次回の定例会は、10月23日(木)10時～  
開催形態:対面とオンラインのハイブリット  
場所:ハートフル3階交流室  
進行:リーベ